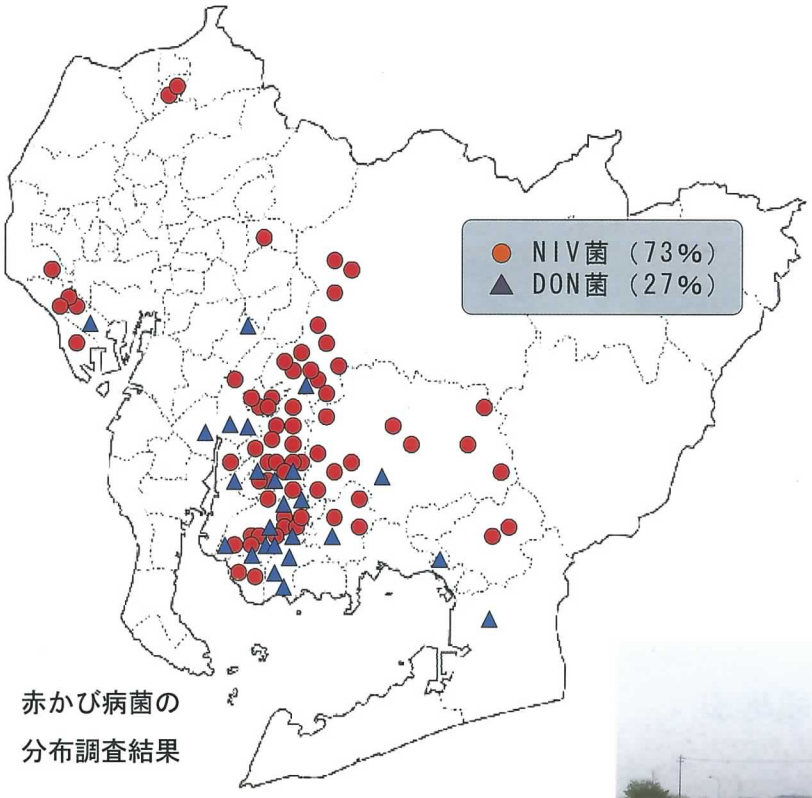
小麦栽培の大敵「ムギ類赤かび病菌」県内分布状況



赤かび病菌の
分布調査結果

ムギ類赤かび病の病徴

《防除対策》

○適期の防除

防除薬剤はあいち病害虫情報
http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/などを参考

○適期収穫と速やかな乾燥・調製

○粒厚選別等による被害粒の除去

赤かび病の防除作業　豊田加茂農業改良普及課

ムギ類赤かび病は、麦の穂が侵される病気で、発生が多い場合には、人畜に有害なかび毒が麦粒に残るため、出荷ができなくなる重大な病気です。赤かび病菌には、かび毒であるﾃﾞｵｷｼﾆﾊﾞﾚﾉｰﾙ(DON)とﾆﾊﾞﾚﾉｰﾙ(NIV)を産み出す2種類（DON菌、NIV菌)があります。平成18年産小麦から赤かび病菌を採取し、遺伝子レベルで種類を調べたところ、本県では、NIV菌が7割、DON菌が3割分布していることが明らかになりました。DON菌には厳格な出荷規制が設けられていますが、将来、NIV菌にも規制値が設けられる可能性があり、生産現場では、これまでどおり防除を徹底する必要があります。（環境基盤研究部）